

「あいこう・ふなこ9条の会」ニュース

改憲・軍拡ストップ! 「九条の会」が大集会開催

10月5日、東京なかのZEROホールで、「九条の会大集会」が開催されました。夜の開催にもかかわらず、1300人程のホールはほぼ満席でした。九条の会呼びかけ人の一人、作家の澤地久枝さんは今年93歳とのこと。以前と変わらぬ明快な口調で「全国各地の九条の会は、日本が2度と戦争することがないよう、9条改憲は間違っている」と声をあげよう」と訴えました。

田中優子さん ウクライナ戦争「即時 停戦」を訴える

メインスピーチは、前法政大学総長の田中優子さんと、上智大学教授の中野晃一さんです。田中優子さんは、「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」が、今年1月に発足したことを紹介しました。「戦前、女性

事務局の東京大学名誉教授の小森陽一さんは、「この秋、改憲を許さな



エンジェルトラネペット

性は給与は非正規・正規ともに男性と比べて低い。女性には人権を踏みにじる格差社会に怒っている。戦争になれば軍事最優先で女性にはさらに苦しむことになる」と語りました。ウクライナや台湾情勢を理由に9条改憲を声高に言う人がいるが、「正

しい戦争はどこにもない」と述べ、「ウクライナ戦争がこれ以上長引くと、ロシアとアメリカの対決になり、世界戦争の危険がある。私は即時停戦を言い続ける」と語りました。

中野晃一さん 軍拡ではなく、9条と13条で 相手国に安心の供与を

中野晃一さんは、「改憲軍拡ではなく、安心の供与を」をテーマに語りました。

「日本政府は、2014年7月1日までは、9

条により、相手国に安心の供与を

た。(この日、自衛隊の集団的自衛権行使を容認する閣議決定を行った)

今、日米同盟の際限のない強化の中で、周辺国とのあつれきを招いている。武力で互いに相手脅す抑止力対抑止力では、どちらかが切れたら戦争となる。

アメリカは、日本には集団的自衛権行使として自衛隊を戦争に巻き込みながら、自国の利益にならないければ軍隊は出さない。戦争を避けるには、日本は「こちらからやるつもりはないよ」のメッ

セージを発信することが、相手国にとっての安心の供与。そのかなめが憲法9条と13条。13条は国民生活を守ると言い切っている」と語り、改憲ではなく、憲法の本義にもどり、立憲主義を取り戻そうと訴えました。

そのほか、芸人九条の会のカンカラ三線の歌と演奏、全国首長九条の会共同代表の武蔵野市長ほか、4つの九条の会からの発言がありました。

アニメ「はだしのゲン」
上映会 (無料)
11月11日 (土) 13時半
詳細はチラシをご覧ください。

核兵器の使用を防ぐ唯一の方法は核廃絶

9月26日、ニューヨークの国連本部で、核兵器全面廃絶国際デーを記念する会合が開かれました。グテレス国連事務総長は、「核兵器による威嚇が今再び行われている」と述べ、核使用が人道上的壊

滅的結果をもたらすことと警告しました。同時に「核兵器の使用を防ぐ唯一の方法は廃絶だ」と強調しました。

5月の主要7か国サミットで「核抑止」を発信した「広島ビジョン」を、「核兵器のない世界を追求する確固とした土台」などと主張しました。

「核兵器による威嚇が今再び行われている」と述べ、核使用が人道上の壊

中、日本政府の代表は核

二面に続く

広島ビジョンは、発表された時から「被爆地から核抑止を発信した」として批判されています。記念会合のこの日、長崎では、日本政府に対して一日も早く「核兵器禁止条約に署名・批准を求める署名」が、被爆者を含む各団体で取られました。

国連の会合に参加したジャマイカ代表の発言を紹介します。「核兵器が1発でも使われるなら、人体や環境に長期に影響が及び、全面的な核戦争に広がる。核兵器の存在そのものが、すべての人にとって地球を危険な場所にする。広島と長崎の惨劇を決して忘れてはいけない」

核兵器禁止条約は、国連加盟193カ国中93カ国が署名、69カ国が批准。過半数まであと4カ国です。

内井みちえ



チョットサイエンス 異常気象と地球温暖化 ③

海面上昇の現状とこれから

海面は、北極や南極、氷床の融解による海面上昇だけでなく、海水の温度があがると水分が膨張することで上昇します。各国の政府関係者と世界有数の科学者が参加している気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告によると、1901年から2010

年の約100年間で、海面は19cm上昇しました。2013年には、2100年までに海面が82cm上昇すると予測していましたが、海面上昇は想定外の速さで進んでおり、最も深刻化すると2100年には最大110cmまで上昇するとの見方も出ています。

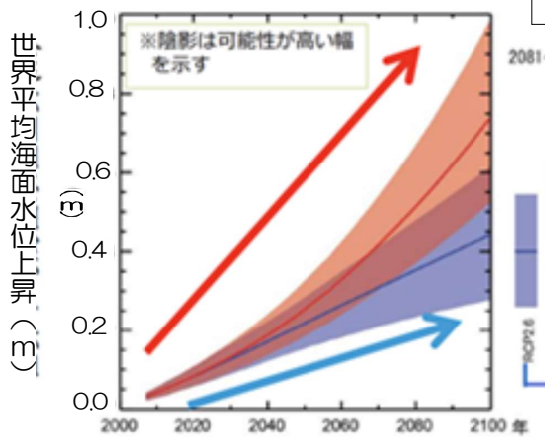
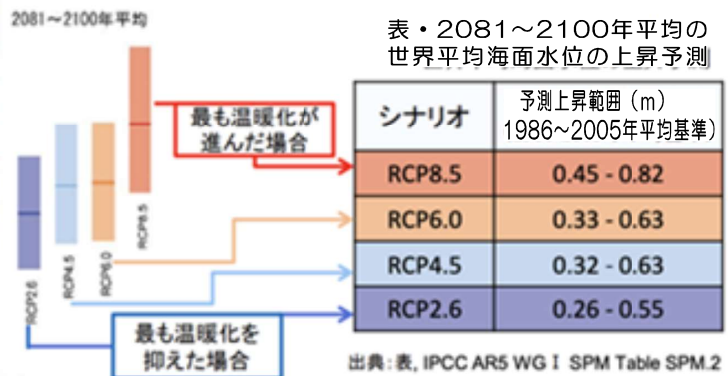


図. 21世紀にわたる世界平均海面水位の上昇予測 (1986-2005年平均との比較)
出典: 図, IPCC AR5 WG I SPM Fig. SPM.9

グラフで見る海面上昇の予測



北極海と北大西洋の間にあるグリーンランドは、南極の次に大きい氷床面積を持っています。JAXAの報告で、2012年にはグリーンランド氷床の全面融解が確認されており、融解の速度が早まっています。2021年に観測されたデータをみると、グリーンランド北部の気温上昇により、例年の2倍以上のペースで氷床の融解が進んでいます。今のペースでグリーンランド氷床の融解が進むと、2100年には約20センチも海面が上昇するという予測もあります。北極や南極の海の上に存在する氷はもともと海水が凍ってできたので、溶けても海面上昇は起きませんが、日本の5.7倍の国土を誇るグリーンランドや南極大陸の氷床のように、大陸や島を覆う氷が溶

けて海に流れ込めば、質量が増えて海面が上昇することは明らかです。

日本における海面上昇の影響

海面が30cm上昇した場合、日本全国の砂浜の半分以上が失われると言われています。もし1m上昇すると、なんと9割以上が消失してしまうと考えられているのです。被害は砂浜だけにとどまりません。海面が1m上昇した場合、もし堤防を高くするなどの対策を行わなければ、東京では、江東区、江戸川区、墨田区、葛飾区のほぼすべてのエリアが影響を受けると予測されています。(続く)

市川隆雄